

# 2011年3月期 決算説明会

2011年5月10日  
ヤマハ株式会社

# 2011/3期 決算の概要



## 外部環境

- 欧米市場の回復及び新興国市場での順調な成長が継続
- 日本は個人消費低迷からの改善が見えず
- 円高傾向は定着

## 決算の概要

- 2011/3期は対前期減収増益  
製造損益の改善と堅調な海外市場での実質増収が寄与
- リビング事業譲渡及びマグネシウム成形事業撤退(▲419億円)、為替影響(▲175億円)を除いた実質売上高は前期比5.2%の増収
- 対前回予想では、売上高はほぼ計画通り  
営業利益、経常利益増なるも、当期純利益は固定資産減損等で減益
- 期末棚卸資産残高は、為替影響(▲35億円)を除けば、前期末に対し、実質57億円の増加

# 2011/3期 業績概要



▶ 対前期減収増益。対前回予想では増収営業増益

(億円)

	10/3 実績	11/3 実績	前期比	前回予想 (11/2/3発表)	前回予想比
売上高	4,148	3,739	▲9.9%	3,730	+0.2%
営業利益 (営業利益率)	68 (1.6%)	132 (3.5%)	+92.8%	125 (3.4%)	+5.3%
経常利益 (経常利益率)	49 (1.2%)	110 (2.9%)	+123.4%	100 (2.7%)	+9.7%
当期利益 (当期利益率)	▲49 (-)	51 (1.4%)	—	65 (1.7%)	▲21.9%

## 為替レート

(円)

売上高	US\$	93	86	86
	EUR	131	113	112
利益	US\$	93	86	87
	EUR	130	115	115

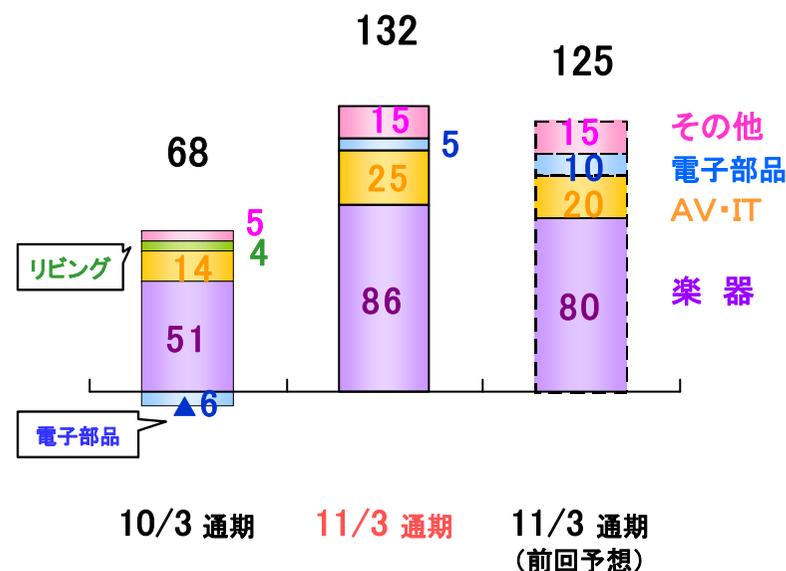
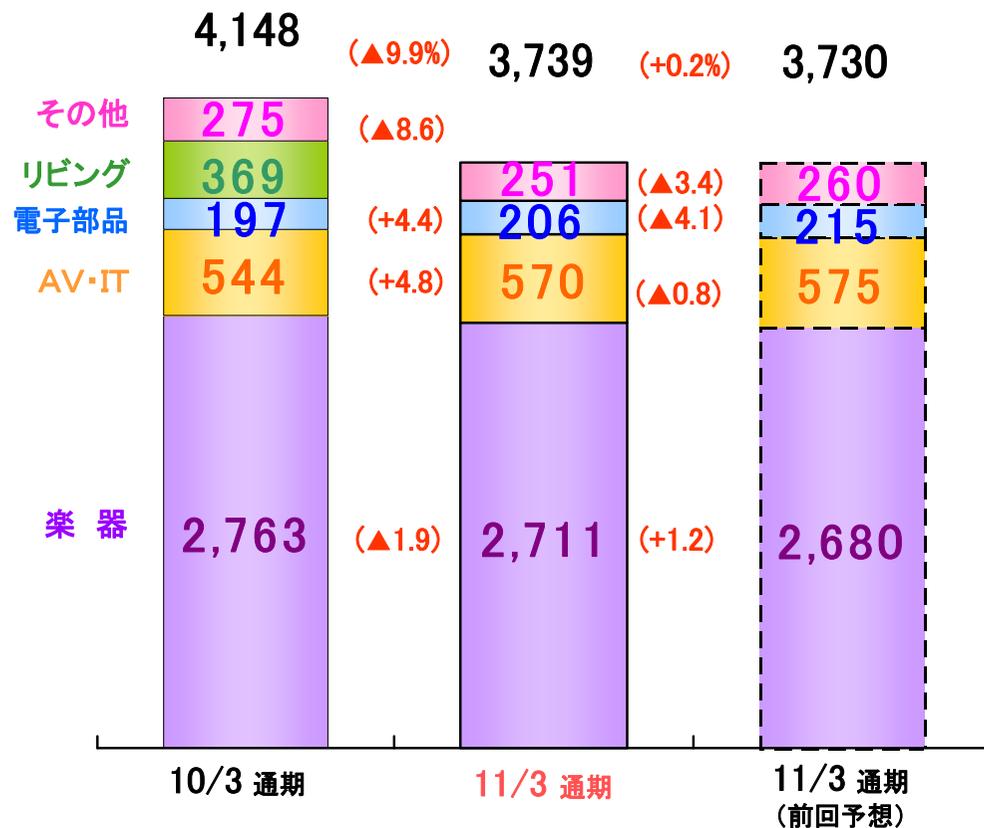
# 2011/3期 通期事業別業績



## 売上高

## 営業利益

(億円)



( )内は前期比  
または  
前回予想比

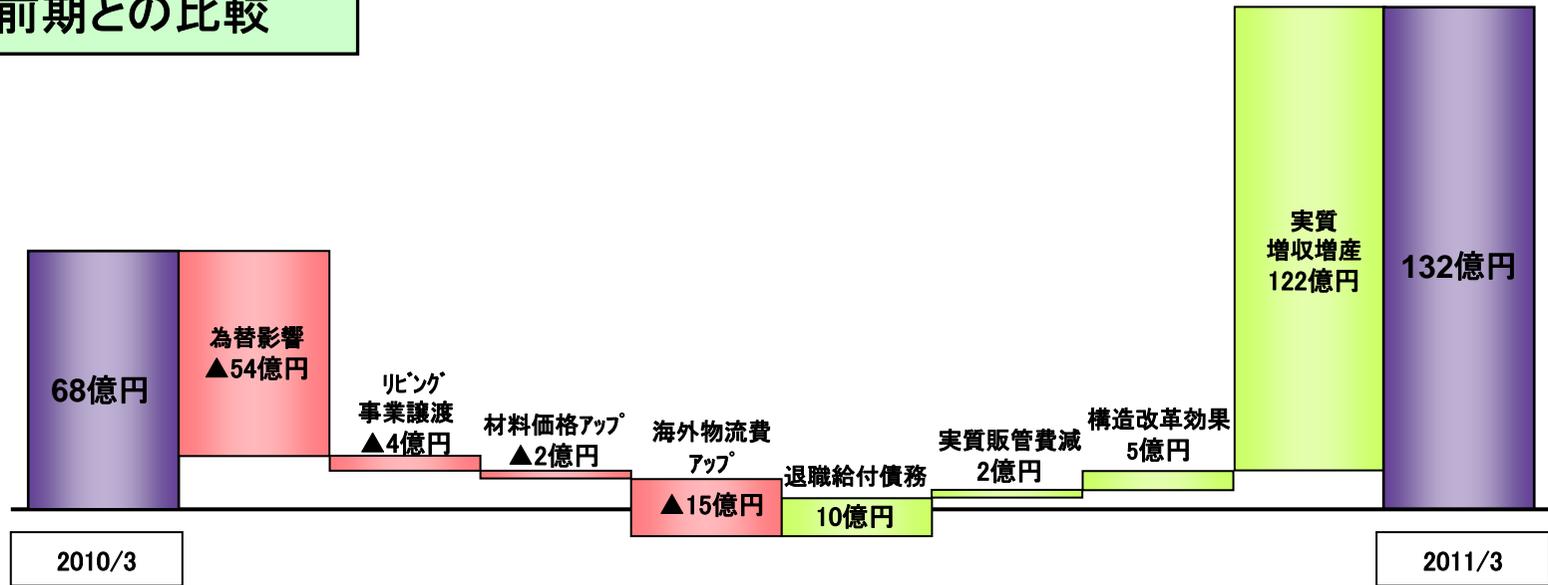
	為替影響額
前期比較	▲175億円 (楽器▲137億円、AV・IT▲36億円、 電子部品▲2億円)
前回予想比較	▲1億円 (楽器▲1億円)

	為替影響額
前期比較	▲54億円 (楽器▲43億円、AV・IT▲10億円、 電子部品▲1億円)
前回予想比較	+2億円 (楽器+1億円、AV・IT+1億円)

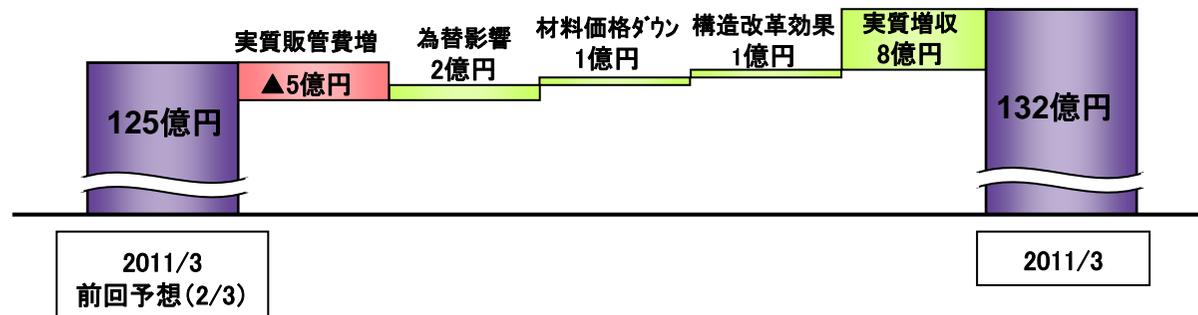
# 2011/3期 通期営業利益増減要因



## 前期との比較



## 前回予想との比較

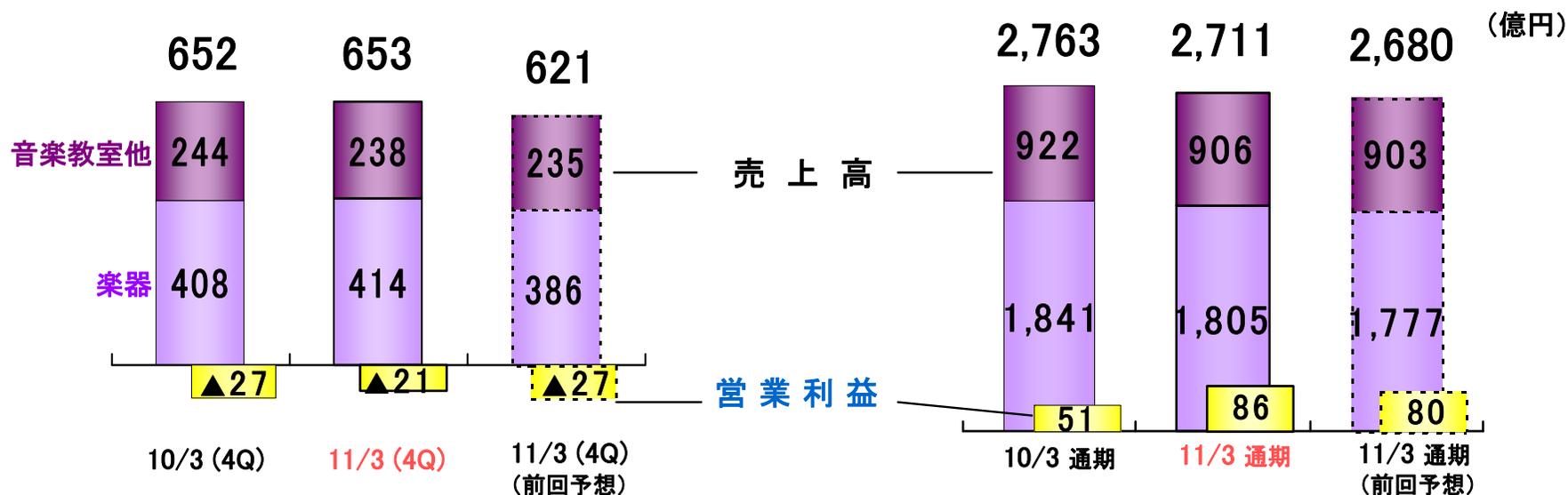


## 4Qの状況

- ・対前年同期、前回予想ともに増収増益
- ・為替影響を除いた実質売上高は、前年同期比4.4%(29億円)の増収
- ・北米、欧州市場の回復基調が継続  
中国及び新興国市場は好調を持続
- ・商品別には、ピアノ、ポータブルキーボード等が好調に推移

## 通期の状況

- ・対前期減収増益。対前回予想では増収増益
- ・為替影響(▲137億円)を除いた実質売上高は、前期比3.1%(85億円)の増収
- ・北米は前期比6%、欧州も6%の実質増収  
日本は前期比3%の減収。中国等新興国市場は成長継続
- ・商品別には、主要楽器の殆どが実質増収
- ・ピアノは、日本を除き全地域で実質増収、中国に加えて欧州も2桁の実質増収
- ・電子ピアノが中国で大幅増、ポータブルキーボードは国内を除き2桁の増収。ギターも全地域で堅調に推移

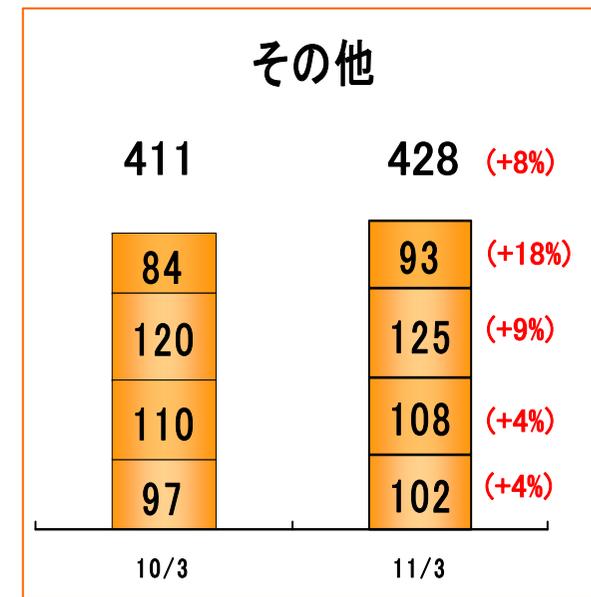
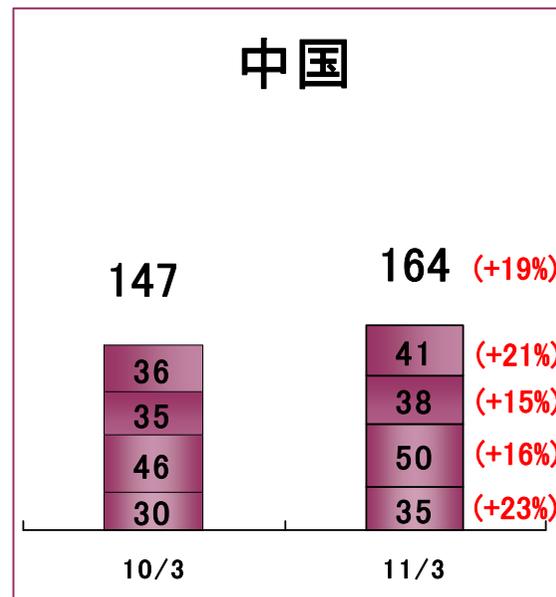
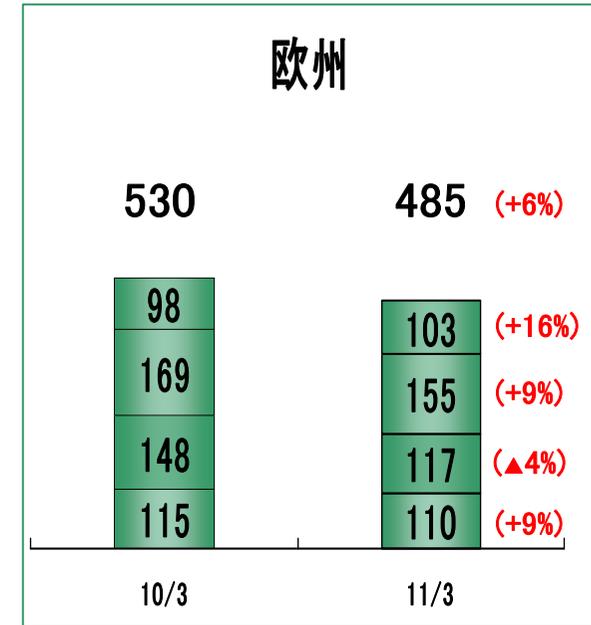
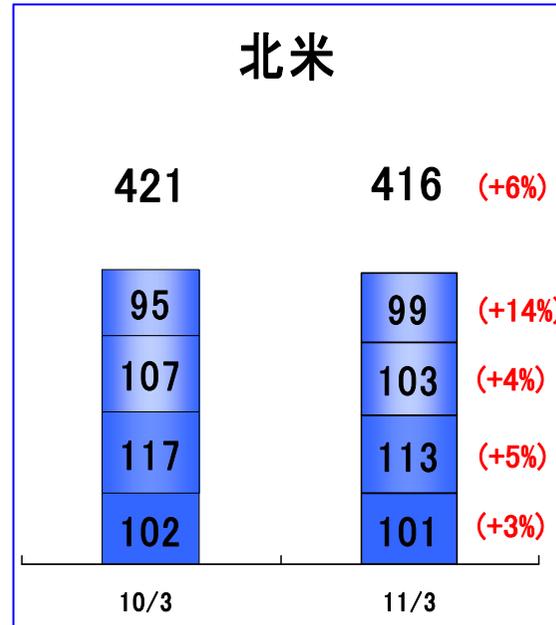
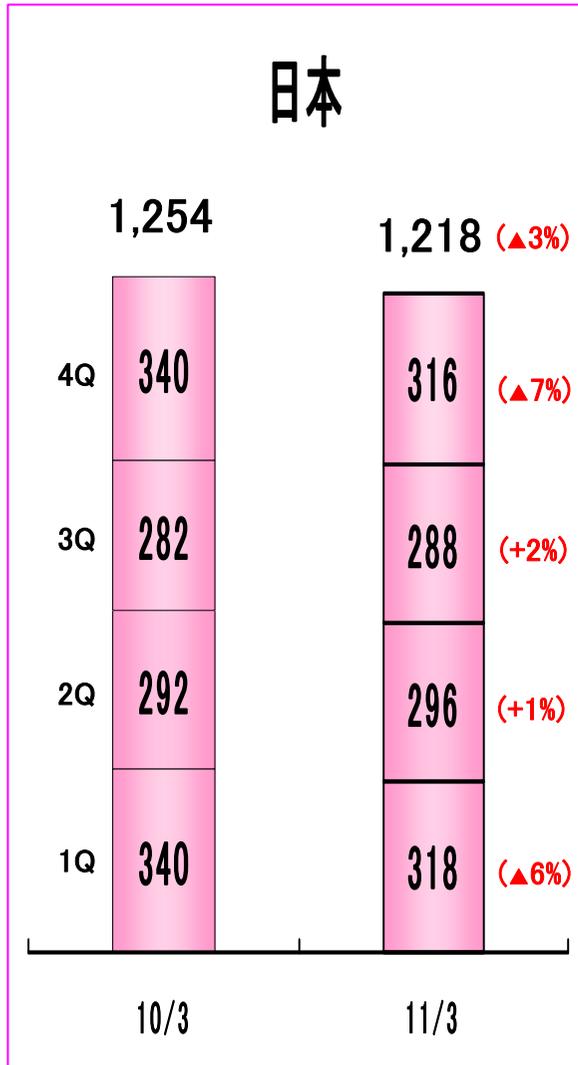


# 楽器事業(地域別の販売状況)



(億円)

\*( )内は為替を除いた  
実質ベースでの前期比増減

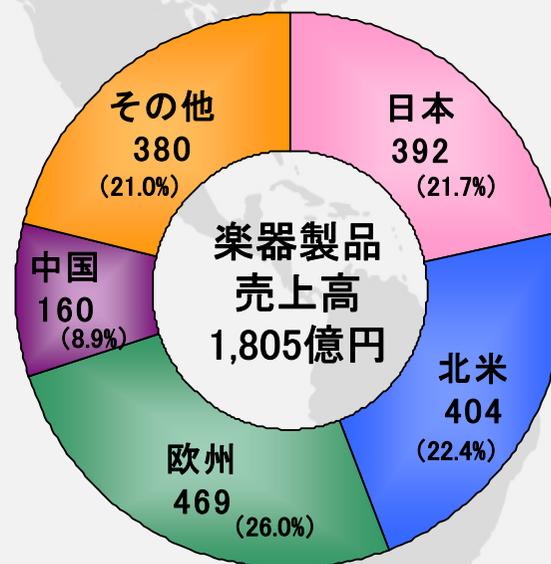


# 楽器事業(地域別の販売状況)



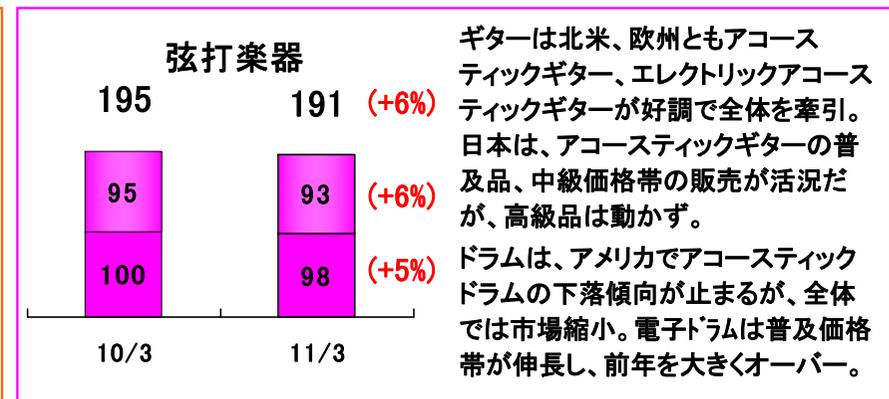
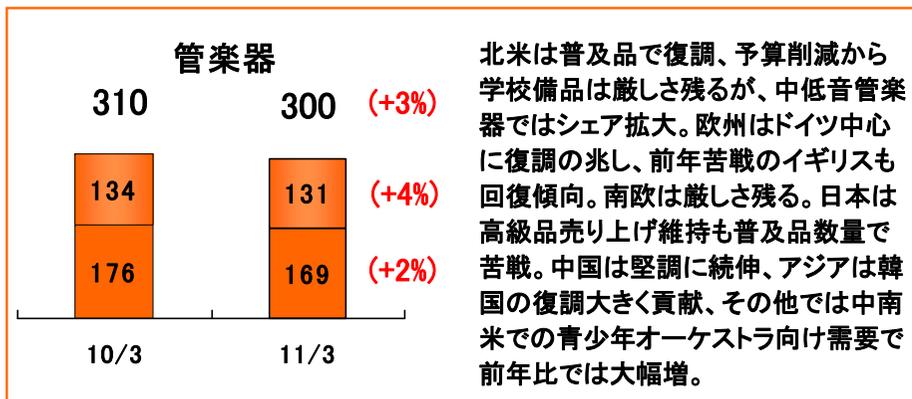
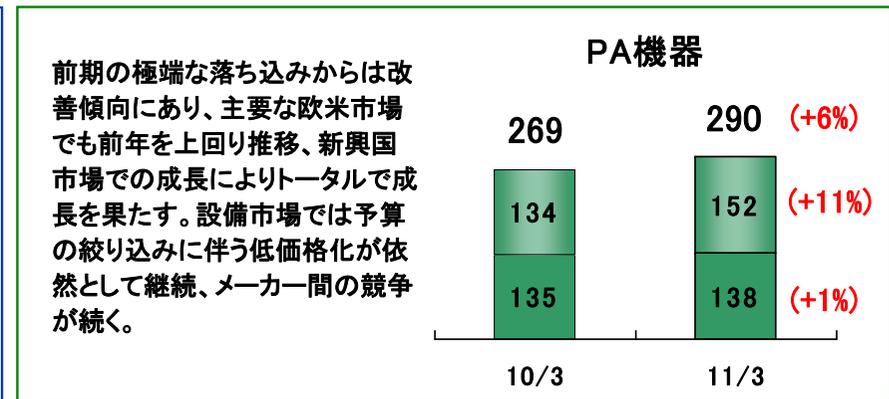
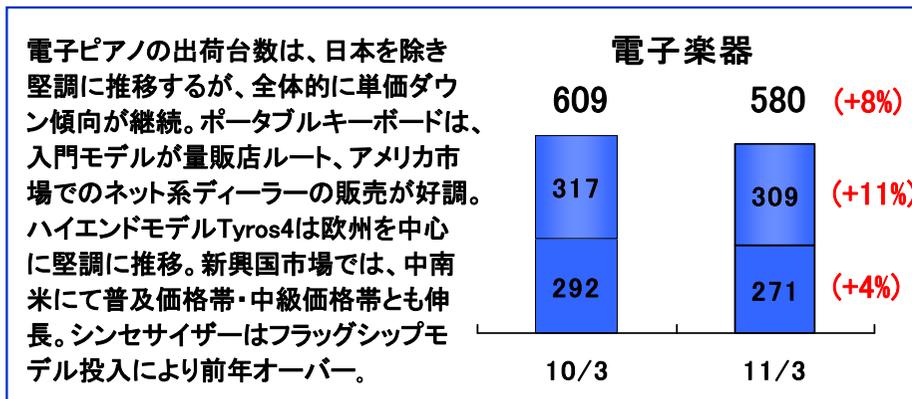
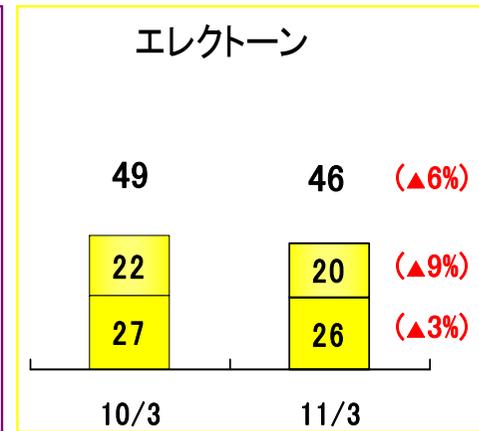
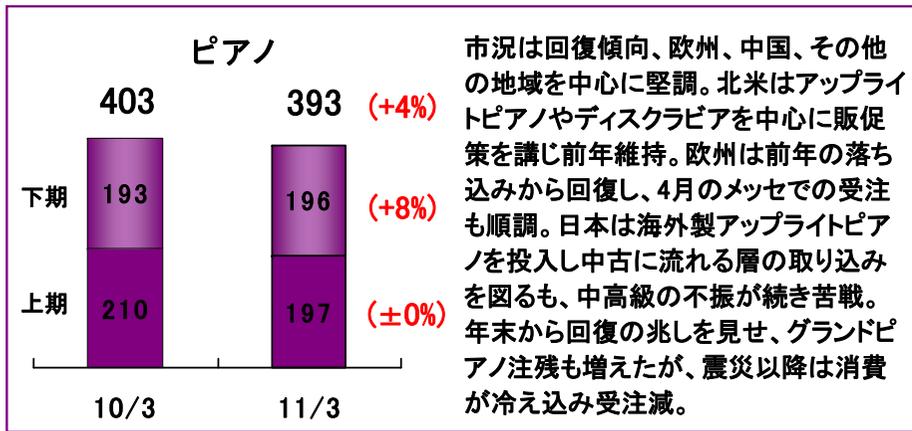
楽器地域別状況	
日本	全体的に顧客の低価格志向が継続。ピアノは海外製アップライトピアノが好調に推移するも全体では厳しい。電子ピアノは普及価格帯が堅調を維持するもハイブリッドピアノで苦戦。ギターはアニメ・映画の影響でバンド需要が拡大し、普及価格帯が順調に推移する。3月は震災によりハード・ソフト事業ともに状況悪化。
北米	カナダ市場は卸ベース減速も、アメリカ市場は2010年は反転上昇。ほぼ全商品で前年を上回る。特にピアノ・ポータブルキーボード・電子ドラムが堅調に売り上げを伸ばす。電子ピアノは数量が増えるものの単価ダウン傾向。設備音響市場も回復傾向で、前年を上回る。
欧州	中・北欧は景気回復を受け前年を上回る。南欧は緊縮財政が消費抑制し苦戦。高価格帯品は敬遠され、低価格志向が高まる。ピアノは回復基調で2桁成長。電子ピアノは数量増だが販売単価は減少。ポータブルキーボードはTyros4効果もあり好調。管教育楽器は教育予算減のため復調ならず。PA機器は設備市場の低迷が継続する。
中国	ピアノ、ポータブルキーボードが好調に推移。特にピアノは2桁成長を維持し販売を牽引。管楽器、ポータブルキーボード、電子ピアノ、ギターなど各ジャンルで販売網整備が進む。
その他の地域	エレクトーンを除きすべての商品で前年実績を上回る。特にポータブルキーボードは好調を維持。台湾、オーストラリア等成熟市場が苦戦するも、中南米、ロシア、インド等が牽引役となり補う。全体では前年を上回る。

楽器製品売上高  
の地域別内訳



2011年3月期

# 楽器事業(商品群別の販売状況)

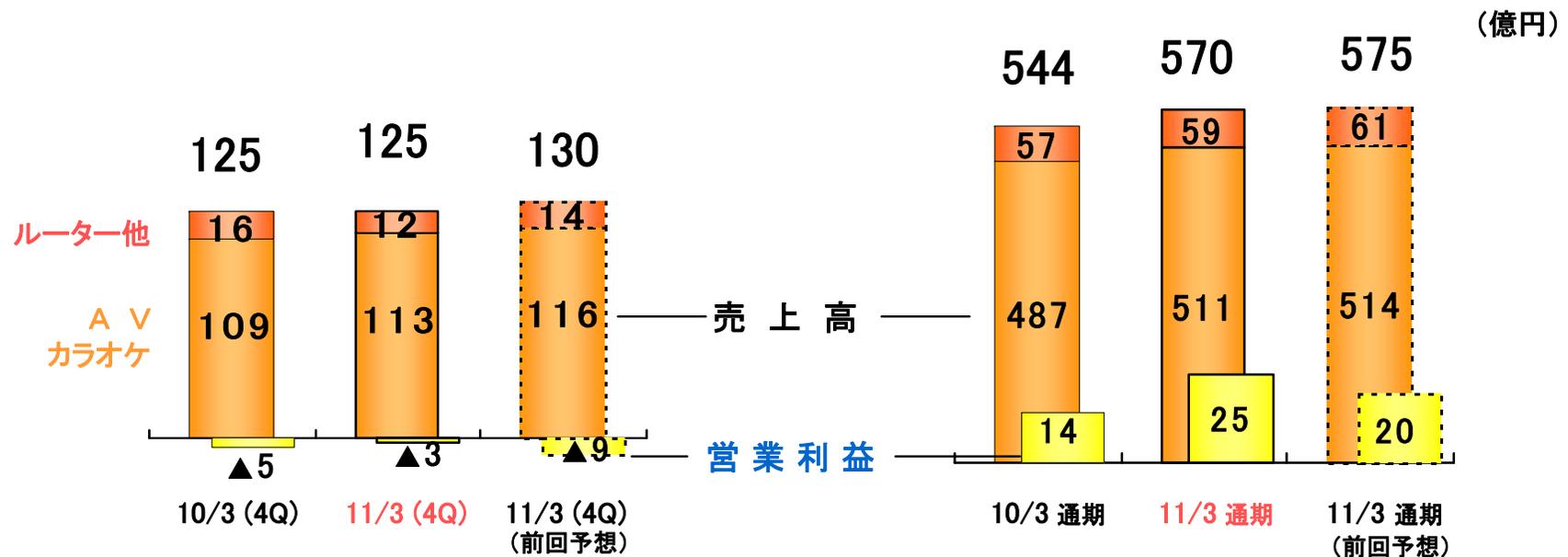


## 4Qの状況

- ・対前年同期では売上高前年並みも損益改善  
前回予想に対しては減収、損益改善
- ・為替影響(▲7億円)を除いた実質売上高は、  
前年同期比5.6%(7億円)の増収
- ・国内はエコポイント減額でラックシステムが減速
- ・通信カラオケ新製品が好調に推移

## 通期の状況

- ・対前年同期増収増益、対前回予想減収増益
- ・為替影響(▲36億円)を除いた実質売上高は、  
前期比11%(62億円)の増収
- ・AV機器の実質売上高は北米が苦戦継続も欧州、中国、  
その他の地域で増収
- ・日本はフロントサラウンド商品が、期を通じて好調継続
- ・通信カラオケ新製品が下期から好調に推移し貢献

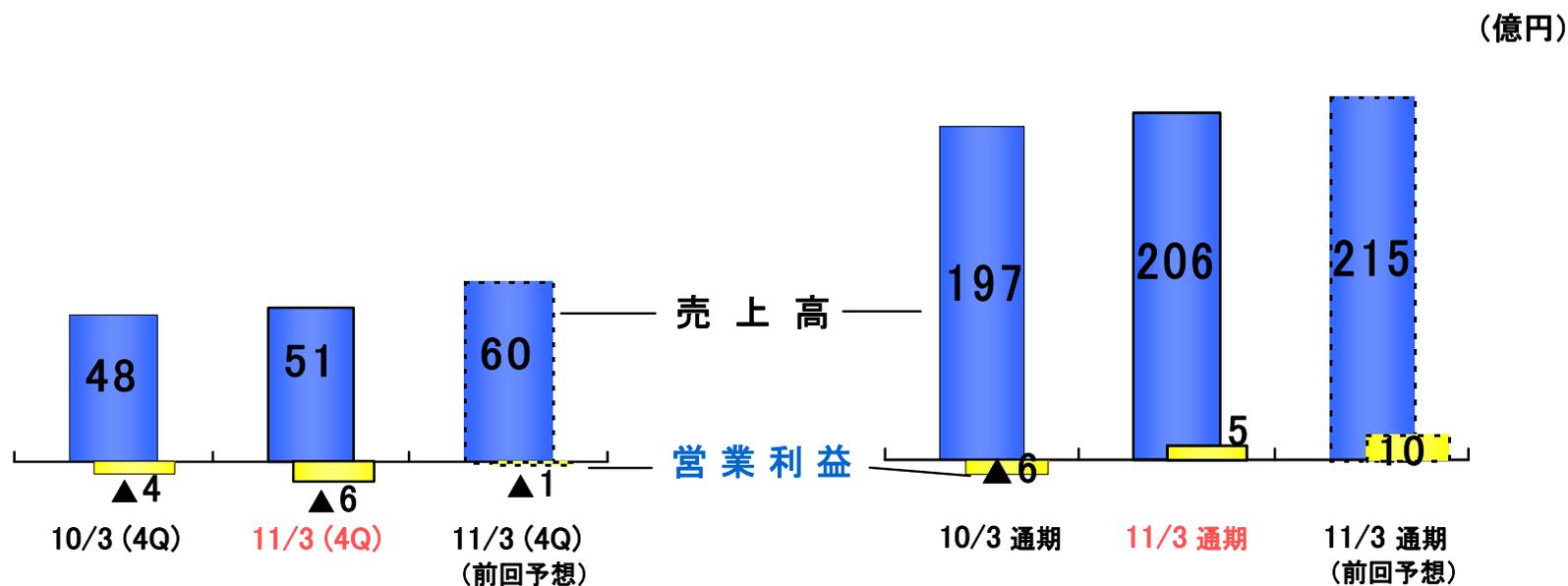


## 4Qの状況

- ・対前年同期増収減益。対前回予想では減収減益
- ・売り上げ未達は納入先の減産などに伴うものが主
- ・地磁気センサーは、対前年では大幅伸長

## 通期の状況

- ・対前期増収増益、対前回予想では減収減益
- ・携帯電話用音源LSIは引き続き対前期減少
- ・地磁気センサーやアミューズメント画像等は増収
- ・下期以降、各用途で納入時期の翌期ずれ込み等あり  
下方修正した前回予想を更に下回る



# その他の事業

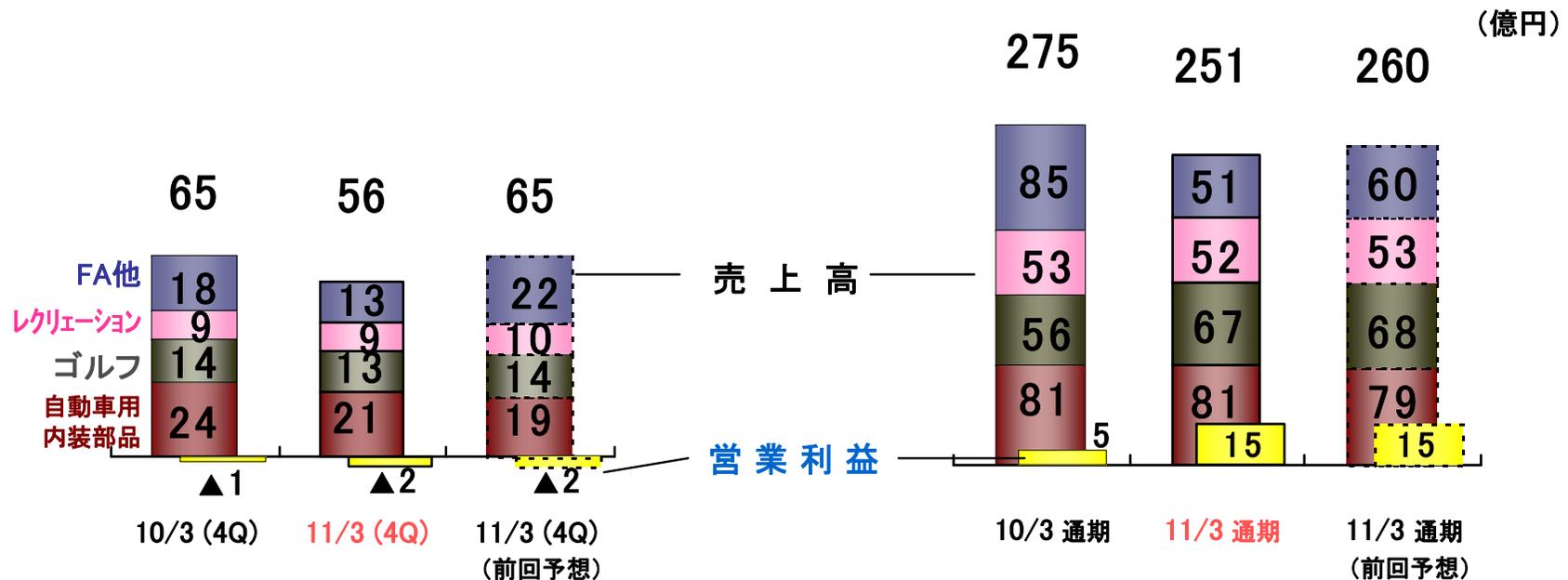


## 4Qの状況

- ・前年同期、前回予想に対し減収
- ・レクリエーションはオフシーズンに加えて震災の影響等で予約客のキャンセル多数発生
- ・自動車用内装部品は震災による自動車メーカーの生産休止による影響発生
- ・FAは中国向け設備投資で好調

## 通期の状況

- ・対前期では、マグネシウム部品事業撤退もあり減収も増益
- ・自動車用内装部品は市況回復による増産で堅調
- ・FAは企業設備投資回復で好調に推移
- ・ゴルフは対前期増収増益
- ・レクリエーションは減収傾向が継続



## 事業環境

- 欧米先進国市場は欧州の一部に不安残るが回復継続
- 中国等新興国市場は堅調に拡大
- 震災による上期での生産、販売への影響を想定

## 業績見通し

- 対前期減収減益を予想
- 震災による部品・材料の調達影響等で主に電子楽器、PA機器、AV機器の生産への影響が不可避
- 生産影響、国内市場の消費冷え込み、法人顧客への納入影響などを想定

# 2012/3期 業績予想



(億円)

	11/3 実績	12/3 予想	増減額	伸び率
売上高	3,739	3,700	▲39	▲1.0%
営業利益 (営業利益率)	132 (3.5%)	100 (2.7%)	▲32	▲24.0%
経常利益 (経常利益率)	110 (2.9%)	80 (2.2%)	▲30	▲27.1%
当期利益 (当期利益率)	51 (1.4%)	50 (1.4%)	▲1	▲1.6%

為替レート

(円)

売上高	US\$	86	85
	EUR	113	110
利益	US\$	86	85
	EUR	115	110

# 東日本大震災による2012/3期業績予想への影響想定額



## 部品調達困難による影響

＜主として楽器事業、AV・IT事業＞

売上高	▲92億円
営業利益	▲33億円

## 国内消費の冷え込みによる影響

売上高	▲45億円
営業利益	▲15億円

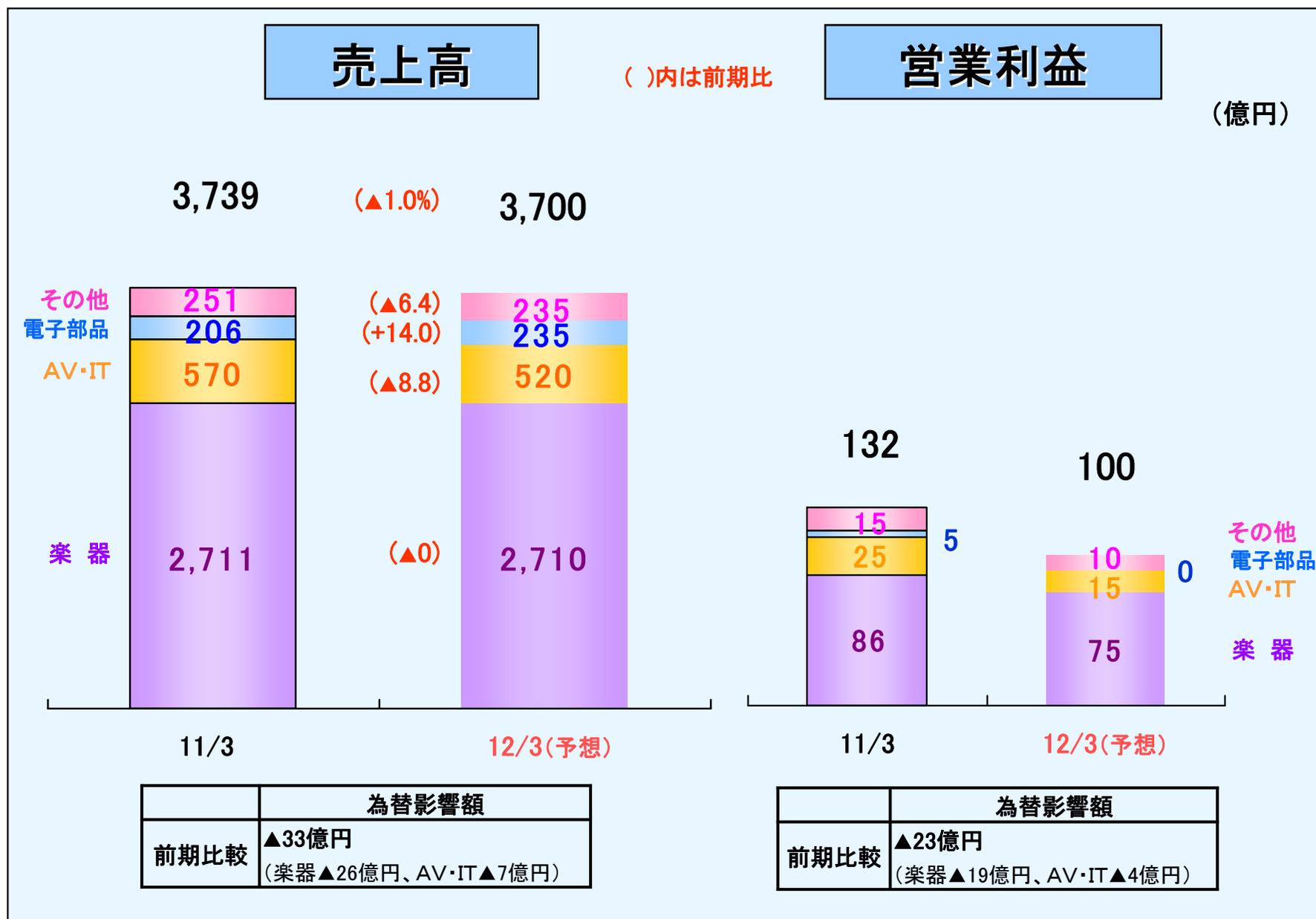
## 顧客の減産対応による影響

＜電子部品事業、その他の事業＞

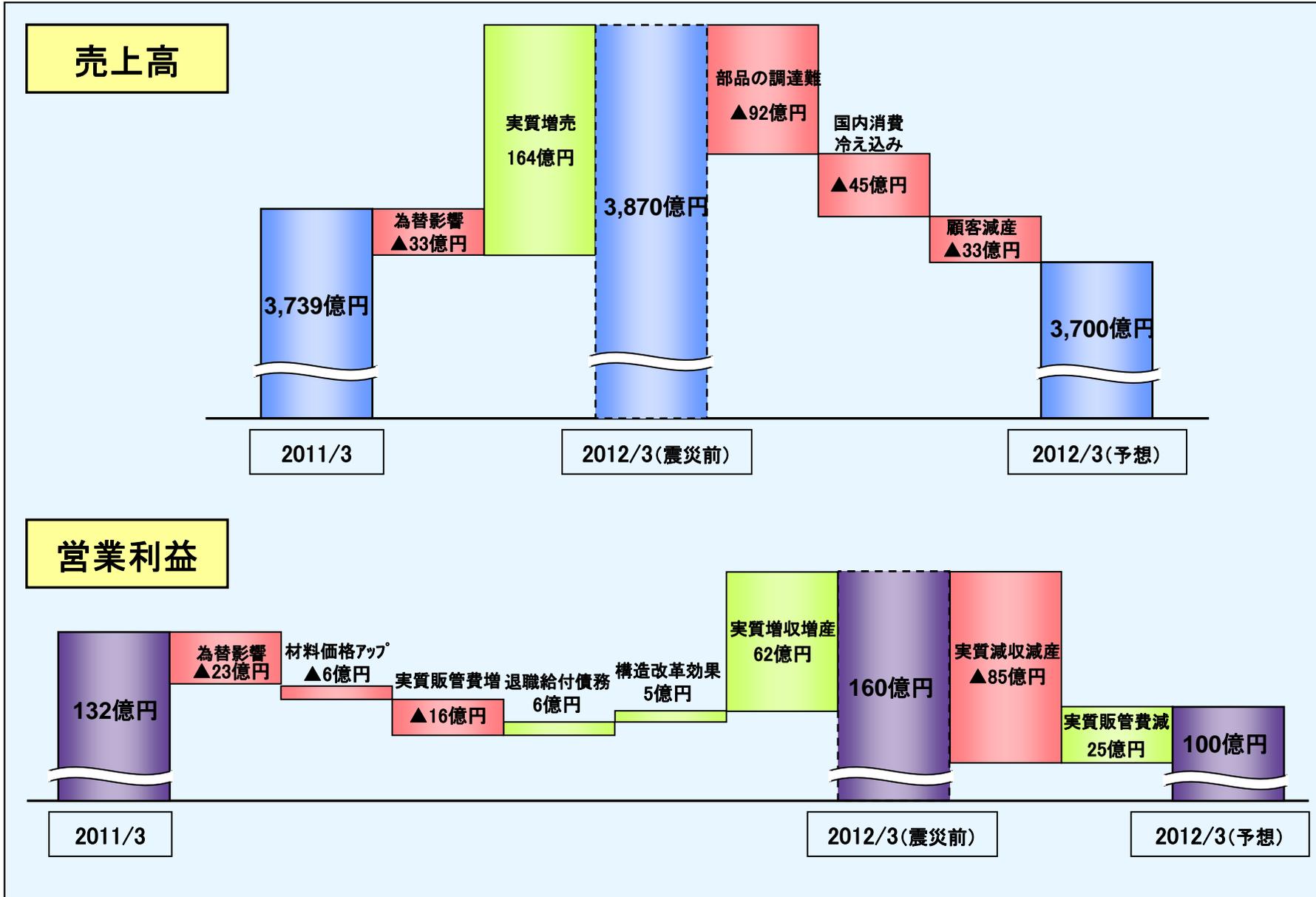
売上高	▲33億円
営業利益	▲12億円

※生産高影響 ▲136億円

# 2012/3期 事業別業績予想



# 2012/3期 売上高・営業利益予想増減要因



# 楽器事業(予想)



## ■市場環境

- ・世界経済は緩やかに回復が継続
- ・中国等新興国市場では成長モメンタムが継続
- ・国内は震災影響による消費マインド冷え込みを想定
- ・流通再編進行(大型店、量販店シェア拡大、Web販売)

## ■重点施策

- ・中国を含む新興国市場での拡販
- ・市場動向に合わせた最適生産体制構築の継続
  - 中国、インドネシア工場増産
  - 国内管楽器工場の一元化(2012.3)
- ・電子楽器等の部材調達難による生産影響の短期化、極小化



# 楽器事業(地域別の販売予想)



(億円)

\* ( )内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

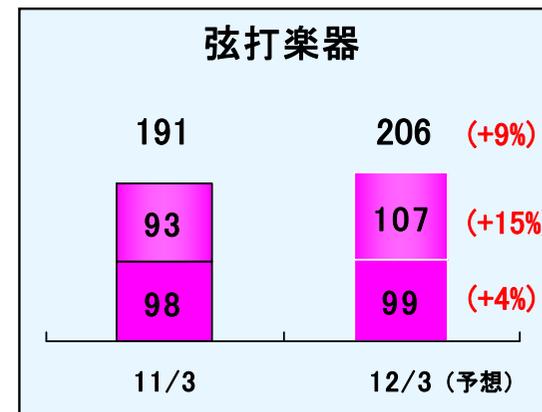
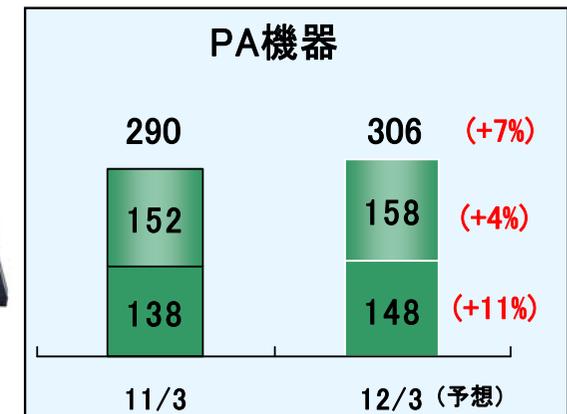
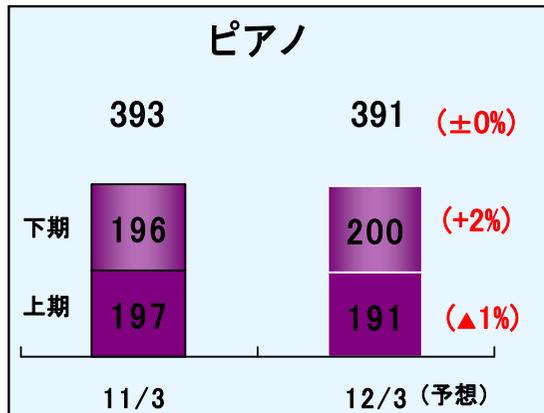


# 楽器事業(商品群別の販売予想)

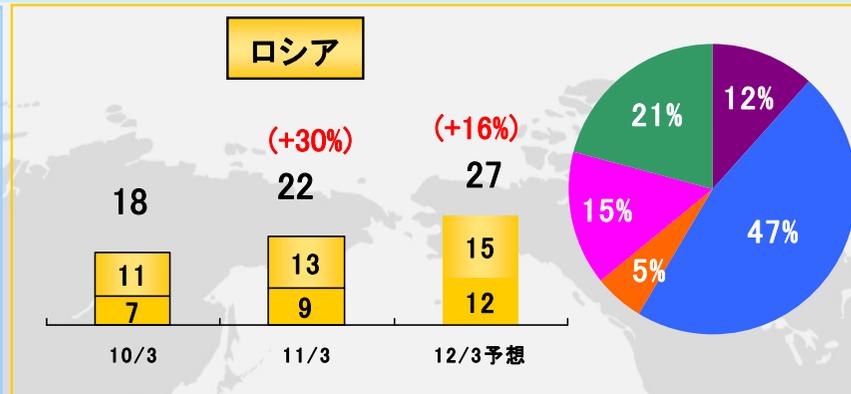
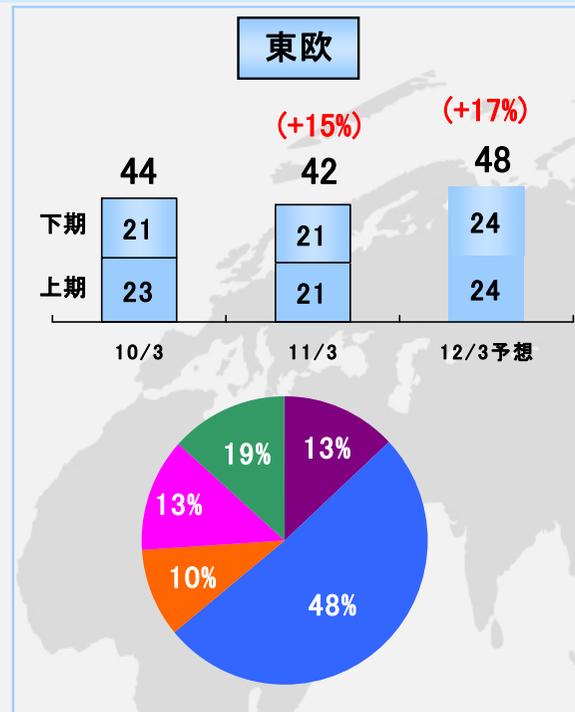


(億円)

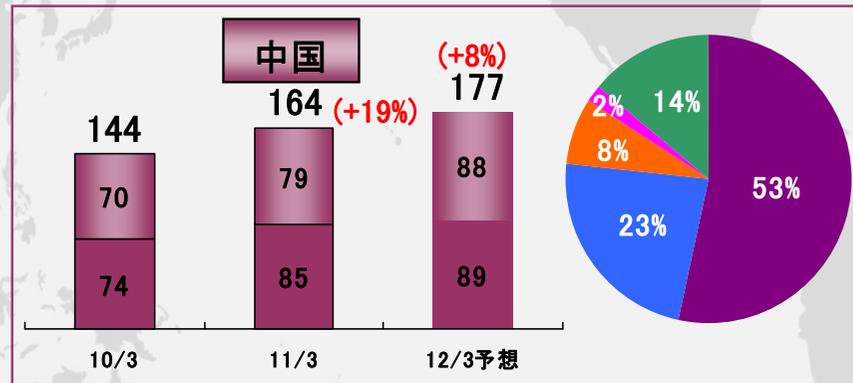
\* ( )内は為替を除いた  
実質ベースでの前期比増減



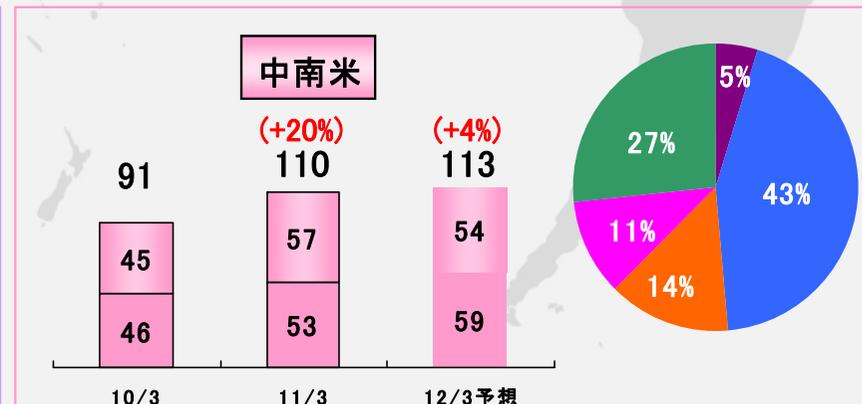
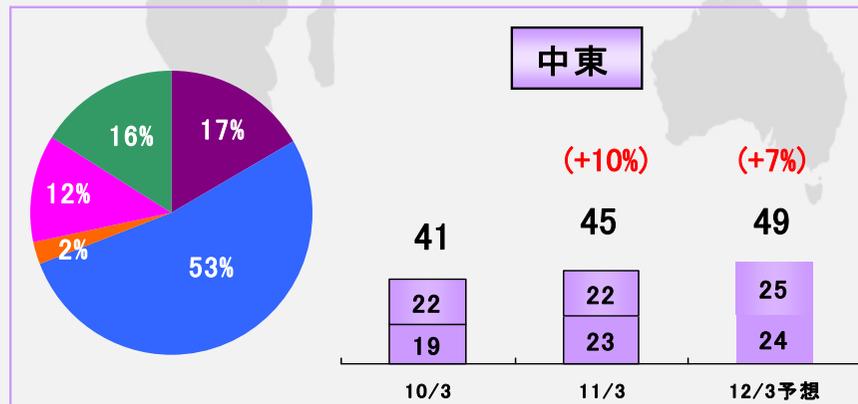
# 新興国市場の販売状況



- (億円)
- ピアノ
  - 電子楽器
  - 管楽器
  - 弦打楽器
  - PA機器



\*( )内は為替を除いた  
実質ベースでの前期比増減



# AV・IT事業(予想)



## ■市場環境

- ・量販店、ネット販売網の競合等加速
- ・新興国市場の成長持続
- ・国内エコポイント終了後の市場縮小と震災後の消費マインドの冷え込み

## ■重点施策

- ・需要動向を把握した商品導入によるAVビジネスの成長
  - AVレシーバー拡販。特に北米市場でのシェア奪還
  - フロントサラウンドシステムの日本市場での販売維持。欧州市場での拡大
  - デスクトップオーディオ等新ジャンル商品強化
  - 部品内製化促進と材料コストダウンによる製造原価の低減
- ・通信カラオケ新製品の安定的な供給
- ・ルーターは商品優位性の訴求によるシェア拡大
- ・部材調達難による生産影響の短期化、極小化



# 電子部品事業(予想)



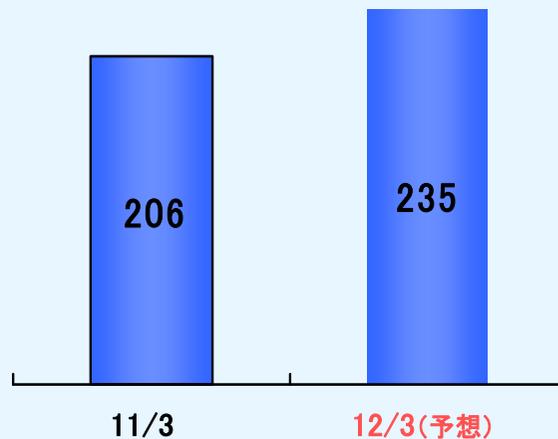
## ■市場環境

- ・従来型携帯電話からスマートフォンへの移行顕著
- ・自動車内のエレクトロニクス化進行
- ・アミューズメント関連市場は縮小

## ■重点施策

- ・携帯電話用音源の採用維持とスマートフォン提案継続
- ・地磁気センサー商品ラインアップ拡大と顧客サポート
- ・アミューズメント画像LSIの維持拡大
- ・車載画像ビジネス拡大
- ・次の成長を担う商品開発のスピードアップ

### 売上高



### 営業利益



# その他の事業(予想)



## ■市場環境

- ・震災影響で今後の自動車生産に不透明感
- ・企業の設備投資回復の兆し
- ・ゴルフ国内市場は減速が継続。海外市場は拡大基調
- ・レクリエーションは、震災の影響拡大を懸念

## ■重点施策

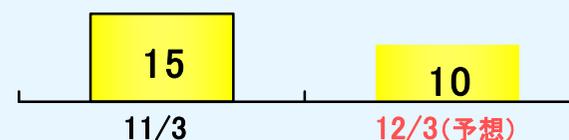
- ・自動車用内装部品はL/T短縮等製造体質の強化
- ・ゴルフは、中国が成長の兆しで、本格的市場対応開始
- ・レクリエーションは、営業強化などの運営会社統合効果創出

### 売上高



### 営業利益

(億円)

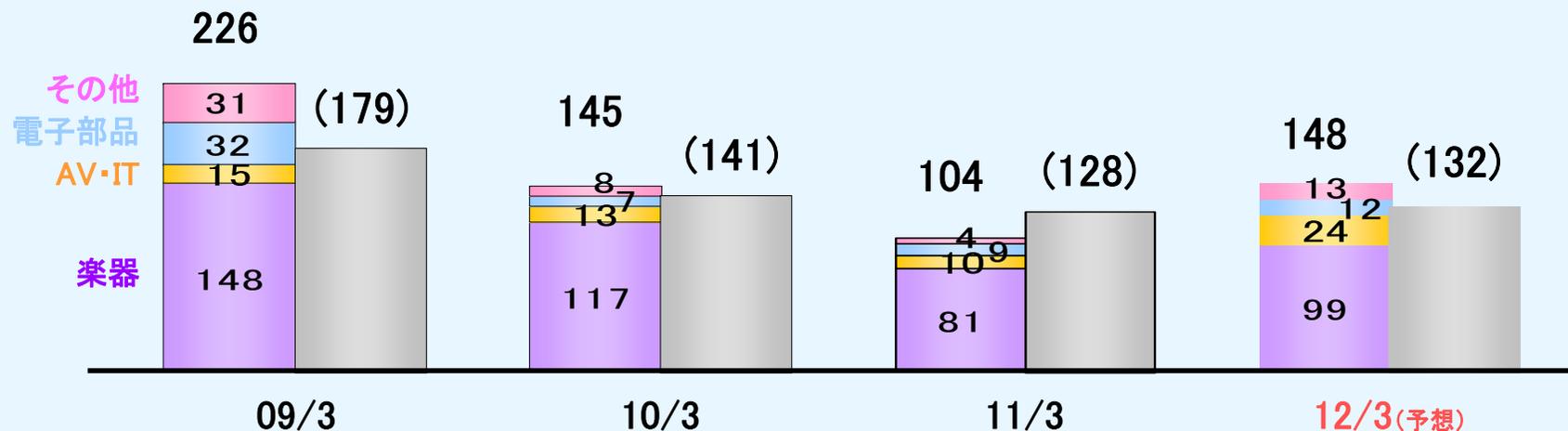


# 設備投資額・減価償却費/研究開発費

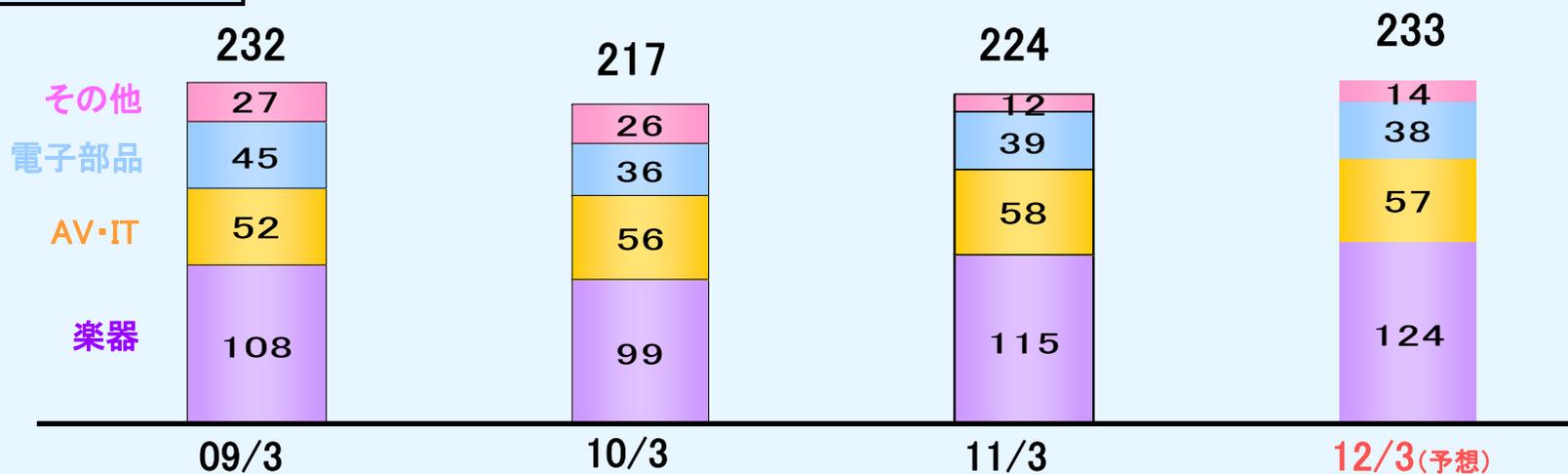


## 設備投資額(減価償却費)

(億円)



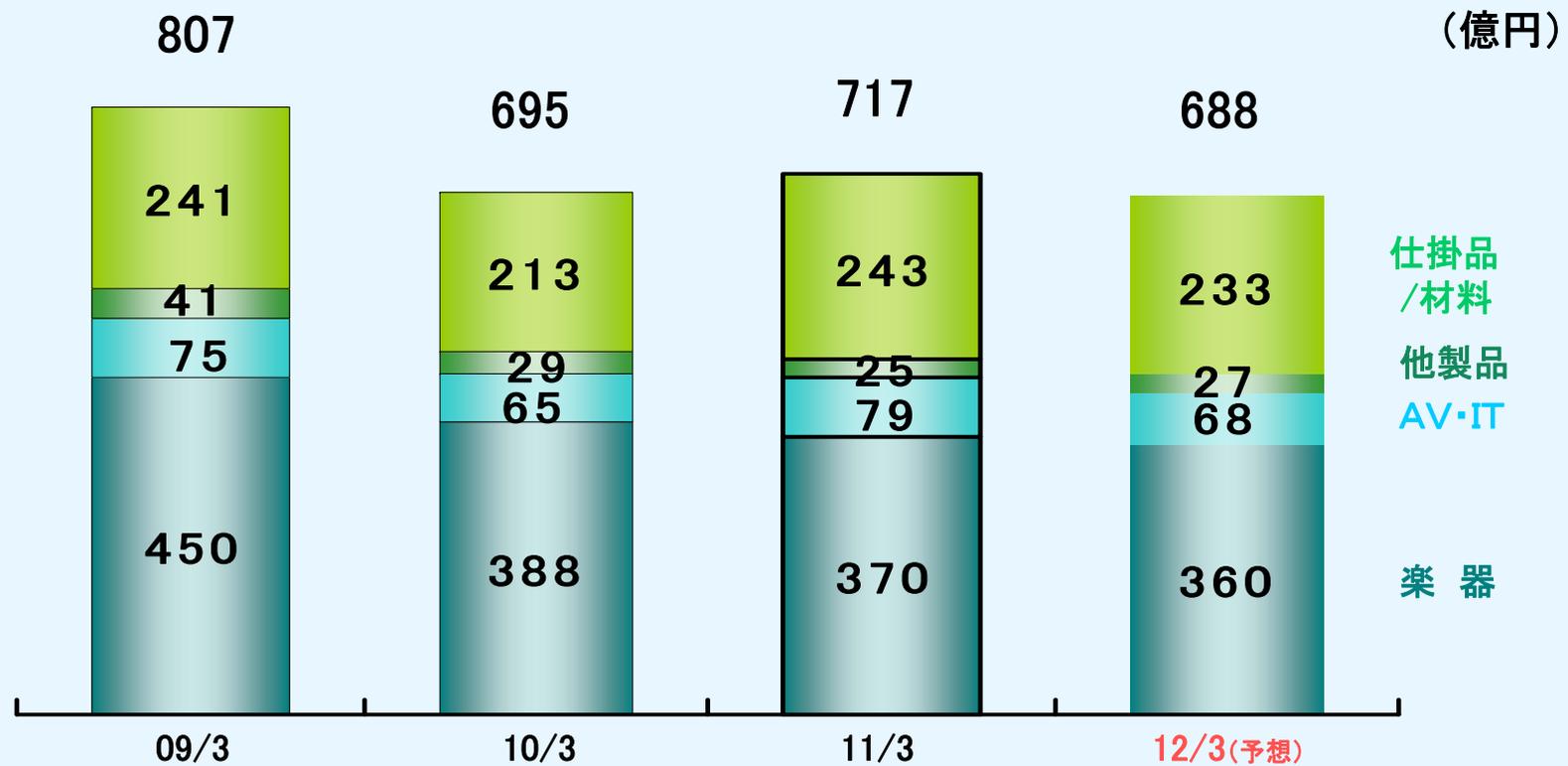
## 研究開発費



# 棚卸資産



➤11/3末総在庫は対前期22億円の増加。  
(為替影響を考慮すれば実質57億円の増加)



# 貸借対照表



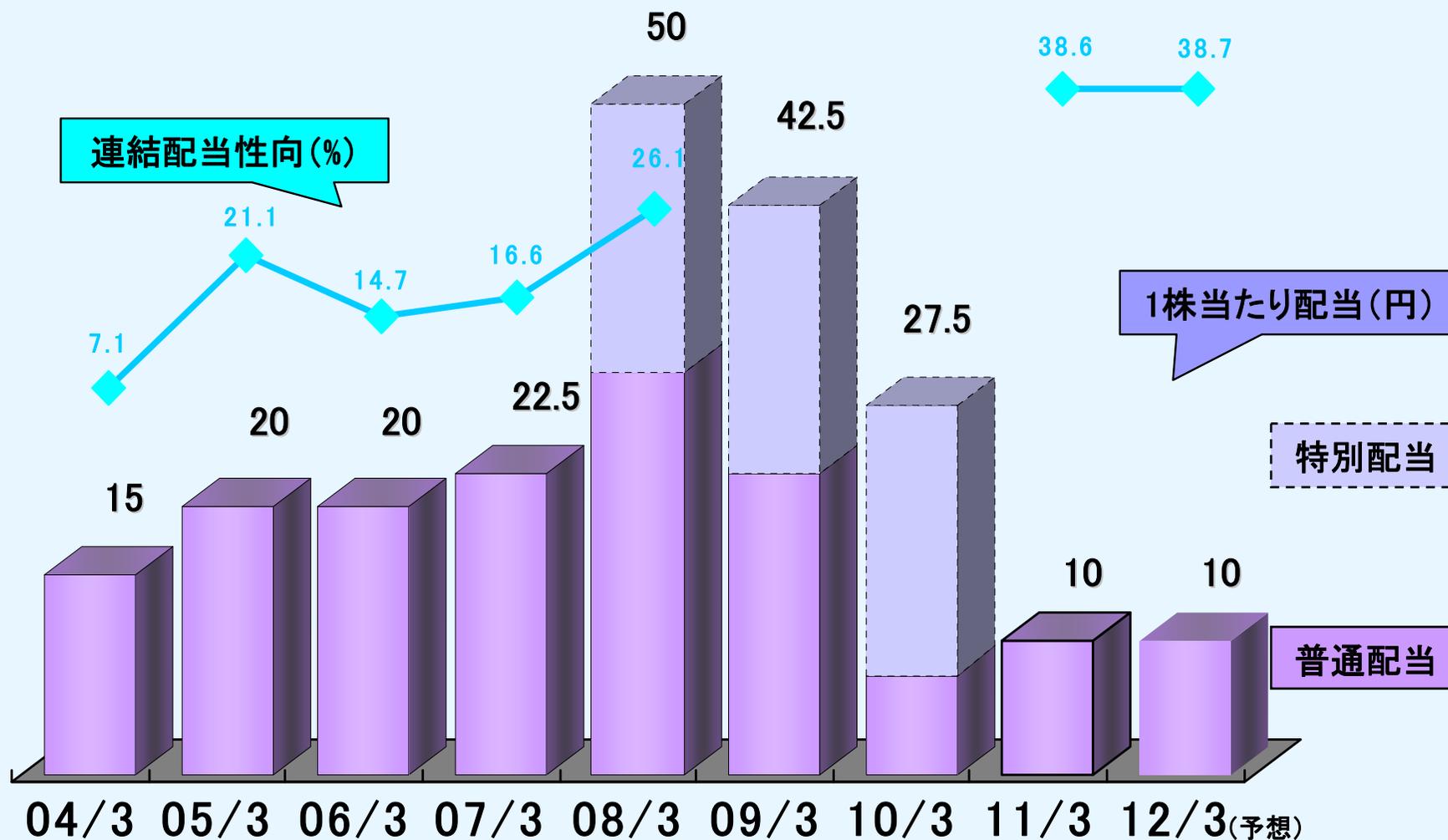
(億円)

	2009/3末	2010/3末	2011/3末	2012/3末予想
現預金	414	594	572	594
売上債権	505	474	451	505
棚卸資産	807	695	717	688
他流動資産	295	170	208	211
固定資産	2,069	2,089	1,961	1,979
<b>資産計</b>	<b>4,090</b>	<b>4,022</b>	<b>3,909</b>	<b>3,977</b>
仕入債務	256	218	242	252
借入金	192	150	118	93
リゾート預託金	167	161	159	159
他負債	957	947	939	991
純資産計	2,518	2,546	2,450	2,482
<b>負債純資産計</b>	<b>4,090</b>	<b>4,022</b>	<b>3,909</b>	<b>3,977</b>

# 株主還元



➤ 2012/3期年間配当は、10円の予定（連結配当性向は38.7%）



付属資料

# 2011/3期 4Q業績



## ➤4Qは対前回予想増収

(億円)

	10/3 (4Q) 実績	11/3 (4Q) 実績	前年 同期比	前回予想 (11/2/3)	前回予想比
売上高	979	884	▲9.7%	876	+1.0%
営業利益	▲37	▲32	—	▲38	—
経常利益	▲39	▲34	—	▲43	—
当期利益	▲79	▲49	—	▲35	—

### 為替レート

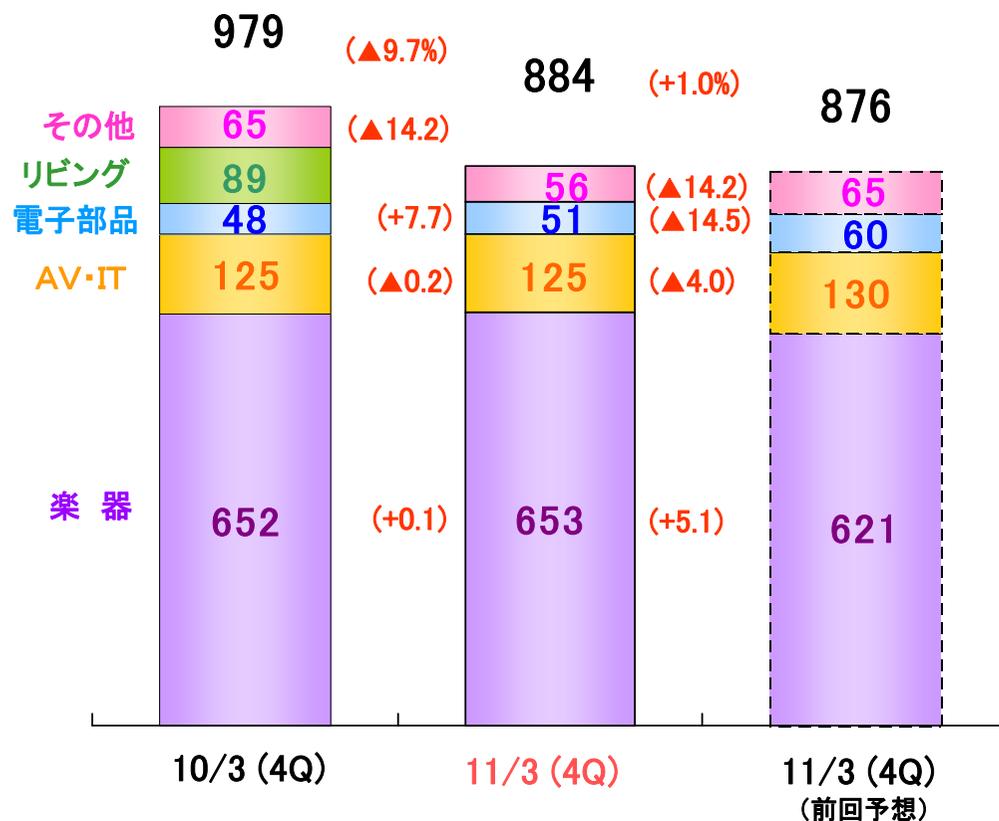
(円)

売上高	US\$	91	82	85
	EUR	125	113	110
利益	US\$	90	82	85
	EUR	131	112	110

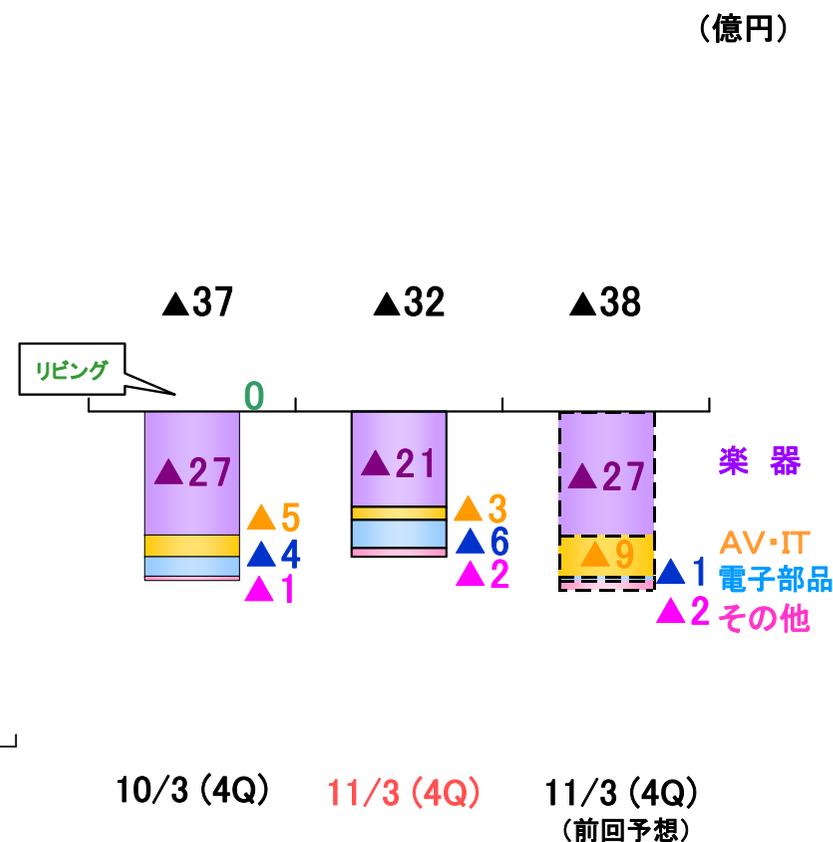
# 2011/3期 4Q事業別業績



## 売上高



## 営業利益



( )内は前年同期比  
または  
前回予想比

	為替影響額
前年同期比較	▲35億円 (楽器▲28億円、AV・IT▲7億円、電子部品▲1億円)
前回予想比較	▲1億円 (楽器▲1億円)

	為替影響額
前年同期比較	▲12億円 (楽器▲10億円、AV・IT▲2億円)
前回予想比較	+2億円 (楽器+1億円、AV・IT+1億円)

# 営業外損益、特別損益



	10/3実績	11/3実績	12/3予想
(億円)			
<b>営業外損益</b>			
金融収支	3	7	2
その他	▲22	▲29	▲22
計	▲19	▲22	▲20
<b>特別損益</b>			
固定資産処分損益	0	▲2	▲3
その他	▲51	▲40	▲2
計	▲51	▲42	▲5
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffffcc;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤマハリビングテック譲渡 ▲22</li> <li>・減損損失 ▲20</li> <li>・インドネシア過年度関税 ▲6</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0f7fa;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・投資有価証券評価損 ▲15</li> <li>・減損損失 ▲27</li> </ul> </div> </div>			
<b>法人税他</b>			
法人税等	31	43	31
法人税等調整額	13	▲30	▲8
少数株主利益	4	4	2
計	47	17	25

# 楽器四半期別売上高／営業利益

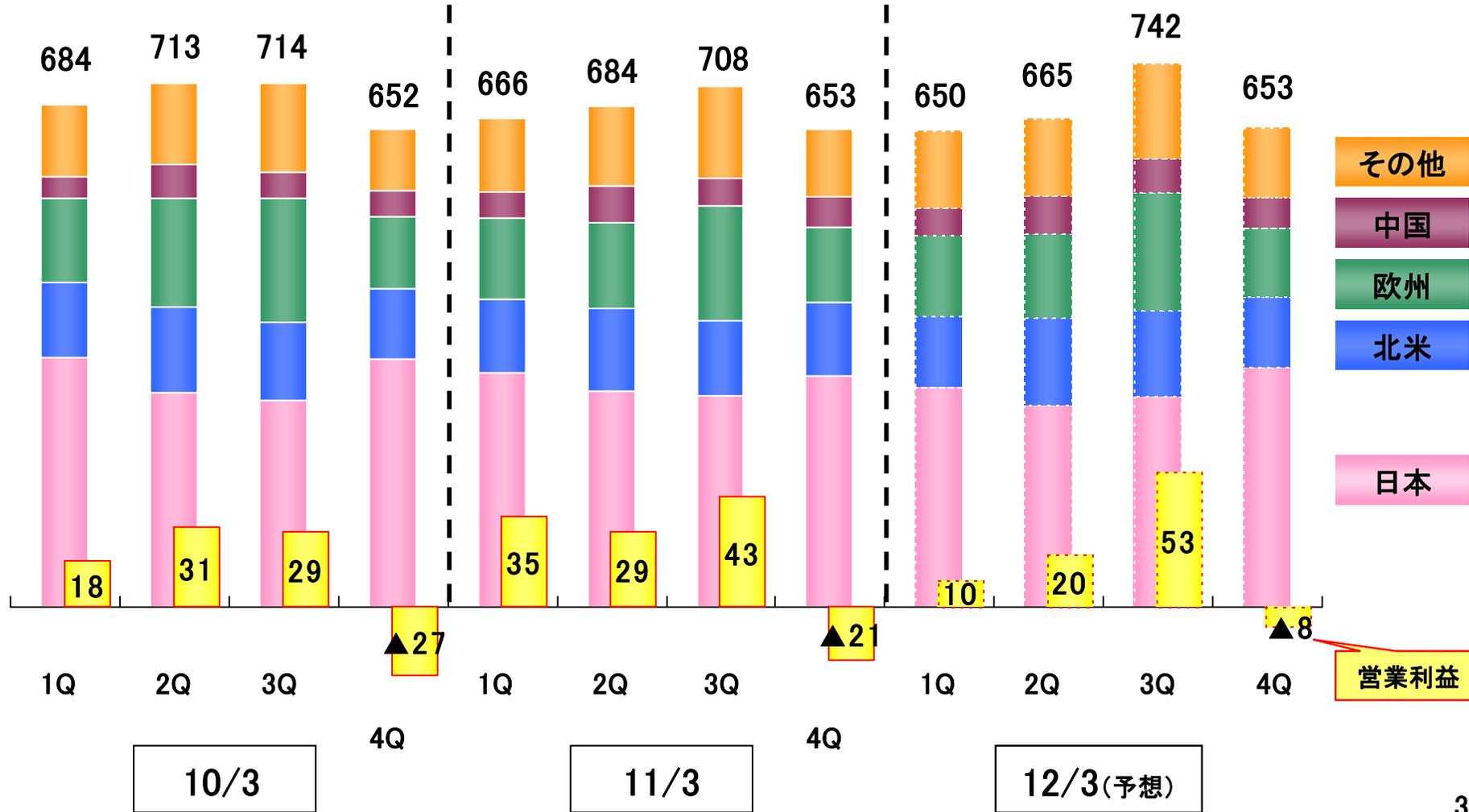


売上高 2,763億円  
営業利益 51億円

売上高 2,711億円  
営業利益 86億円

売上高 2,710億円  
営業利益 75億円

(億円)



# AV・IT四半期別売上高／営業利益

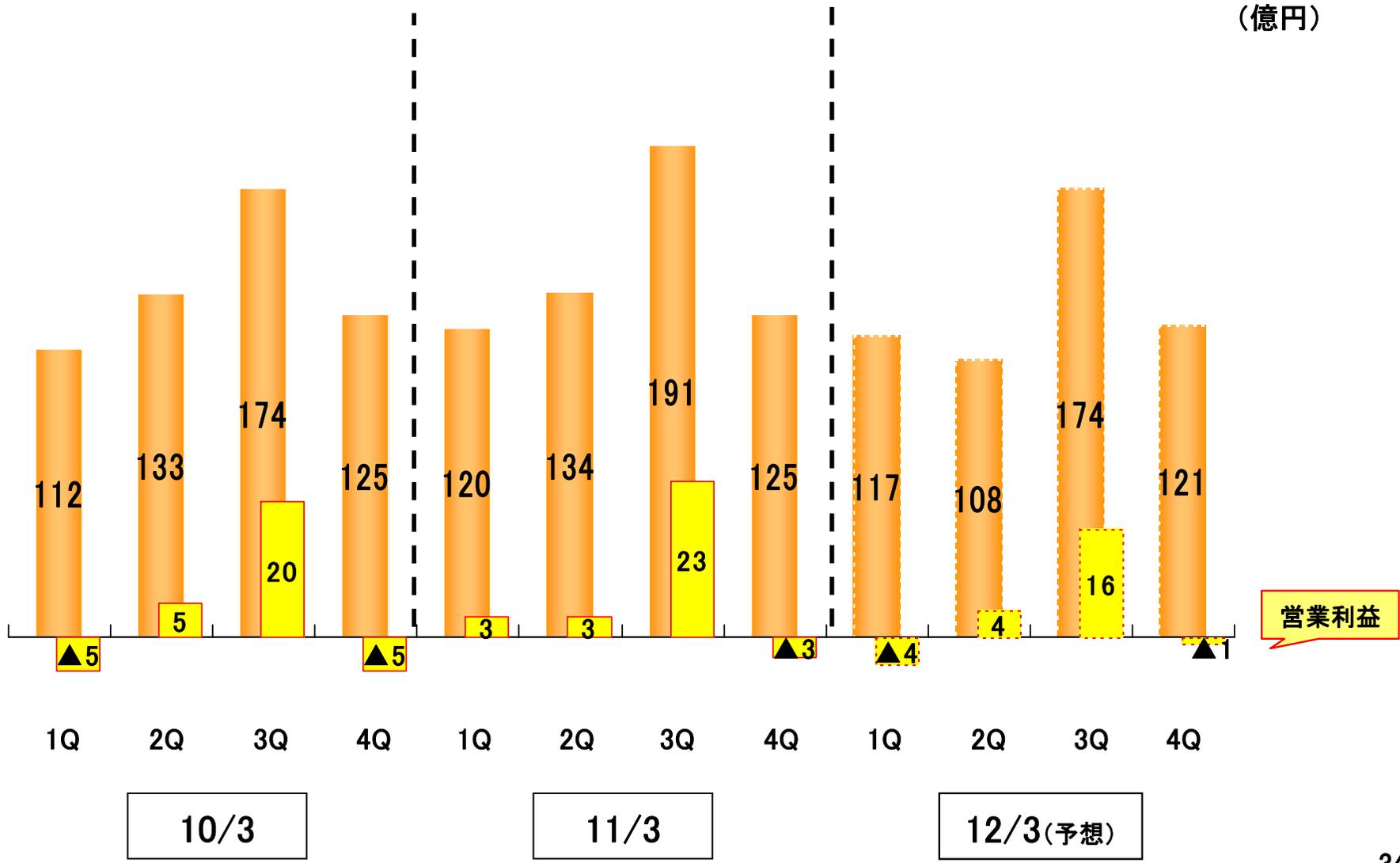


売上高 544億円  
営業利益 14億円

売上高 570億円  
営業利益 25億円

売上高 520億円  
営業利益 15億円

(億円)



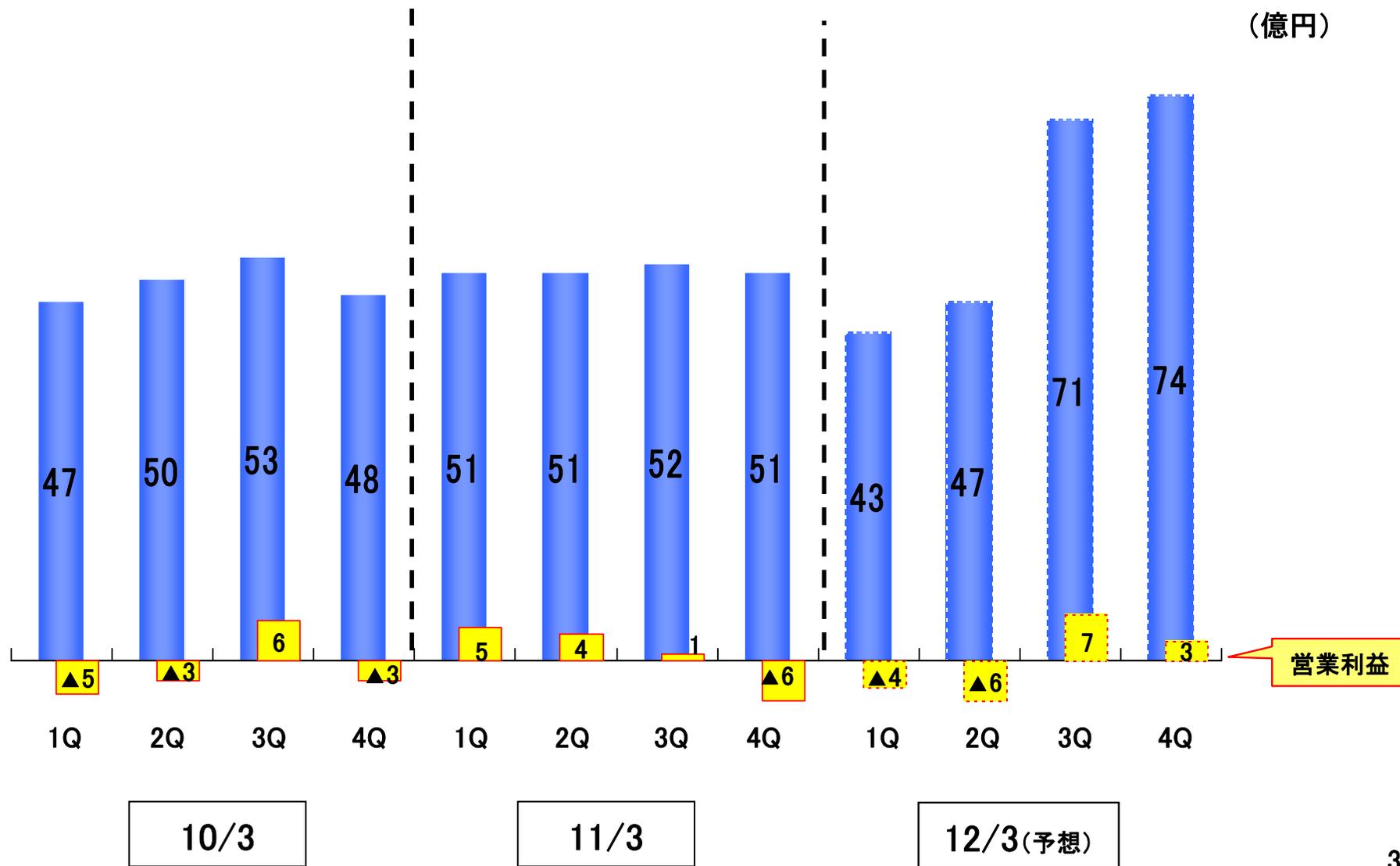
# 電子部品四半期別売上高／営業利益



売上高 197億円  
営業利益 ▲6億円

売上高 206億円  
営業利益 5億円

売上高 235億円  
営業利益 0億円



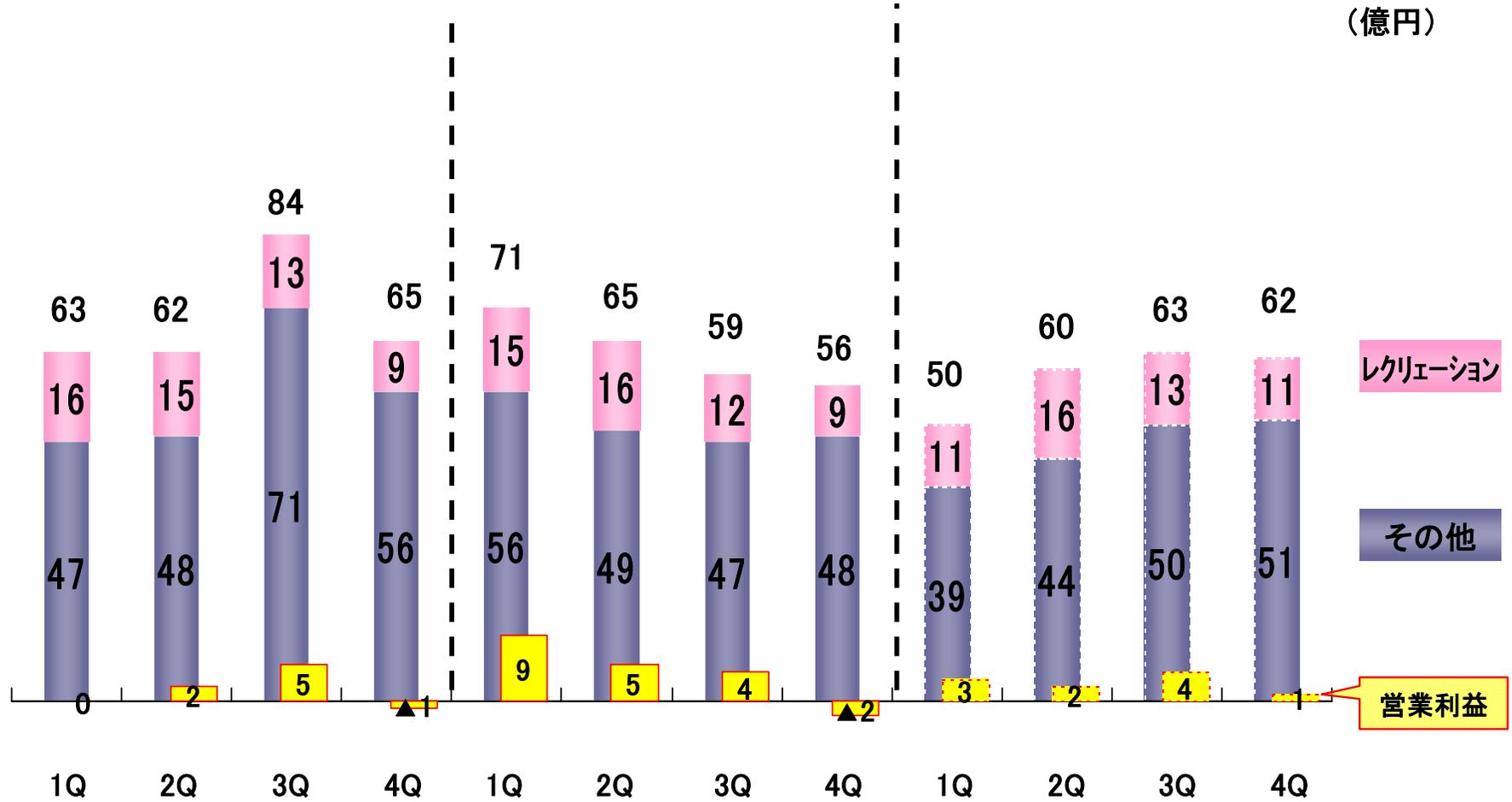
# その他四半期別売上高／営業利益



売上高 275億円  
営業利益 5億円

売上高 251億円  
営業利益 15億円

売上高 235億円  
営業利益 10億円



10/3

11/3

12/3(予想)

この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。